

2016年10月27日

2016年度（平成29年3月期） 第2四半期決算 説明会

 株式会社 日立物流

HITACHI
Inspire the Next

I. 2016年度第2四半期決算について

【決算概要】

全体概要、グループ別、売上収益・営業利益増減内訳、
海外地域別、対計画の偏差理由、受注・立上状況、
(参考) 業態別

【トピックス (国内・海外)】

II. 2016年度通期計画について

【通期計画】

全体概要、事業別

【SgHとの協創プロジェクト】【スマートロジスティクス】【新たな構造改革】

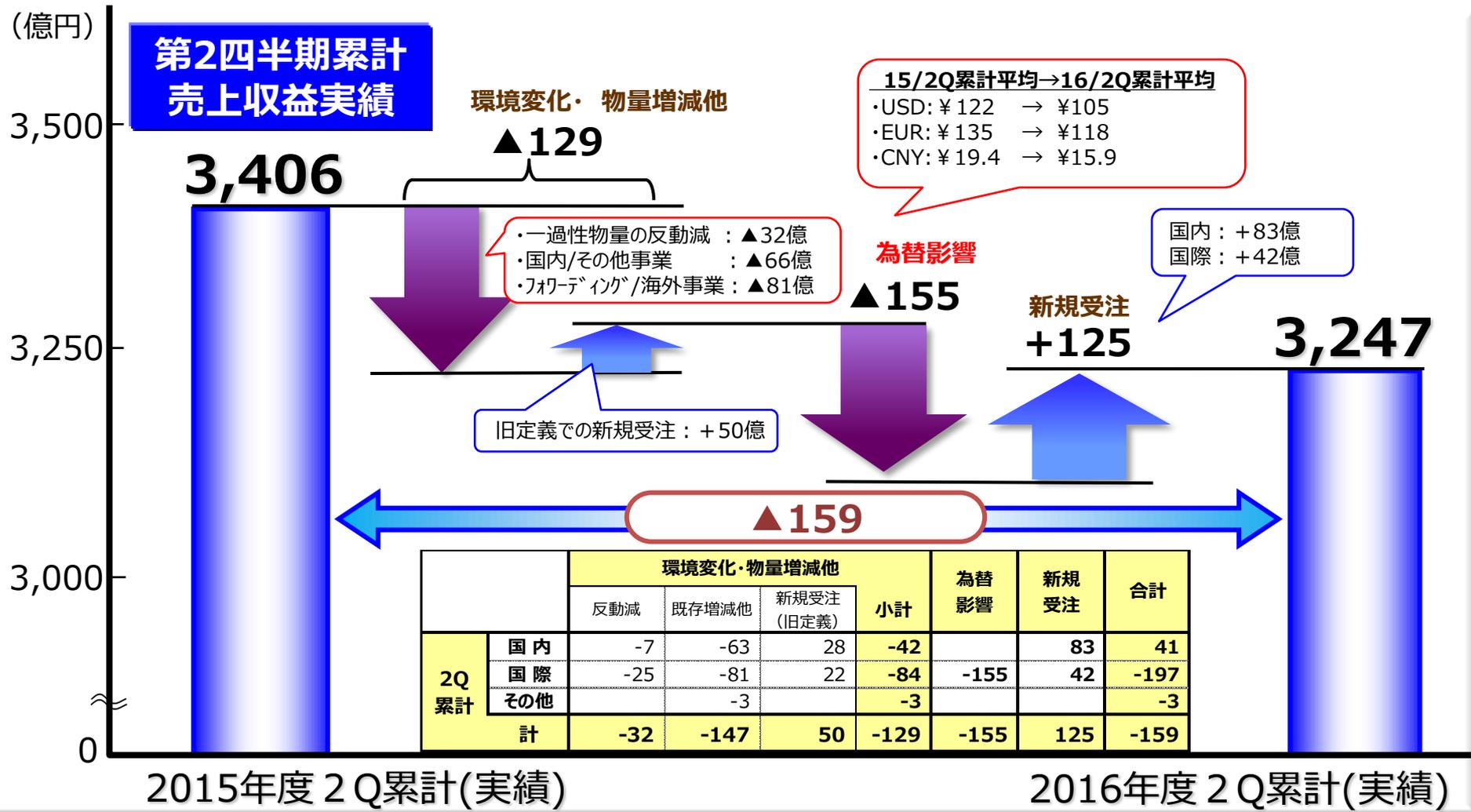
(単位：億円、端数四捨五入、< >内は利益率(%))

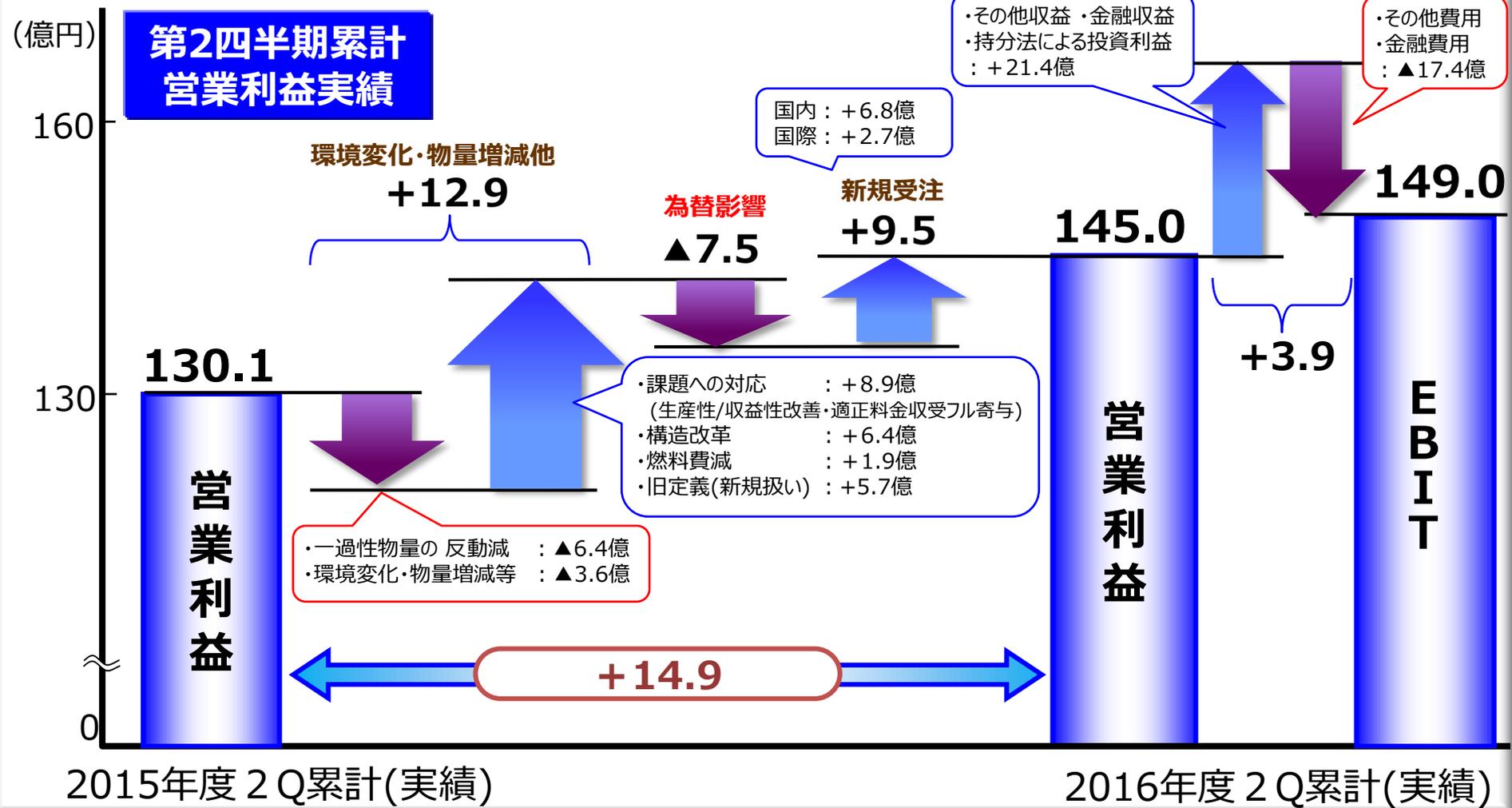
	2015年度		2016年度				
	第2四半期累計		第2四半期累計			通期	
	実績		実績	前年同期比	計画比	計画(10.27修正)	前期比
売上収益		3,406	3,247	95%	98%	6,800	100%
営業利益	<3.8>	130.1	<4.5> 145.0	111%	112%	<4.2> 285.0	101%
受取利息及び支払利息調整後 税引前四半期利益 (EBIT)	<3.4>	116.9	<4.6> 149.0	127%	-	<4.6> 310.0	112%
親会社株主に帰属する 四半期利益	<1.7>	58.5	<2.7> 88.6	152%	143%	<2.7> 185.0	132%

※本資料中の営業利益は、「調整後営業利益」を記載

(単位 : 億円、端数四捨五入、< >内は構成比(%)、()内は増減差)

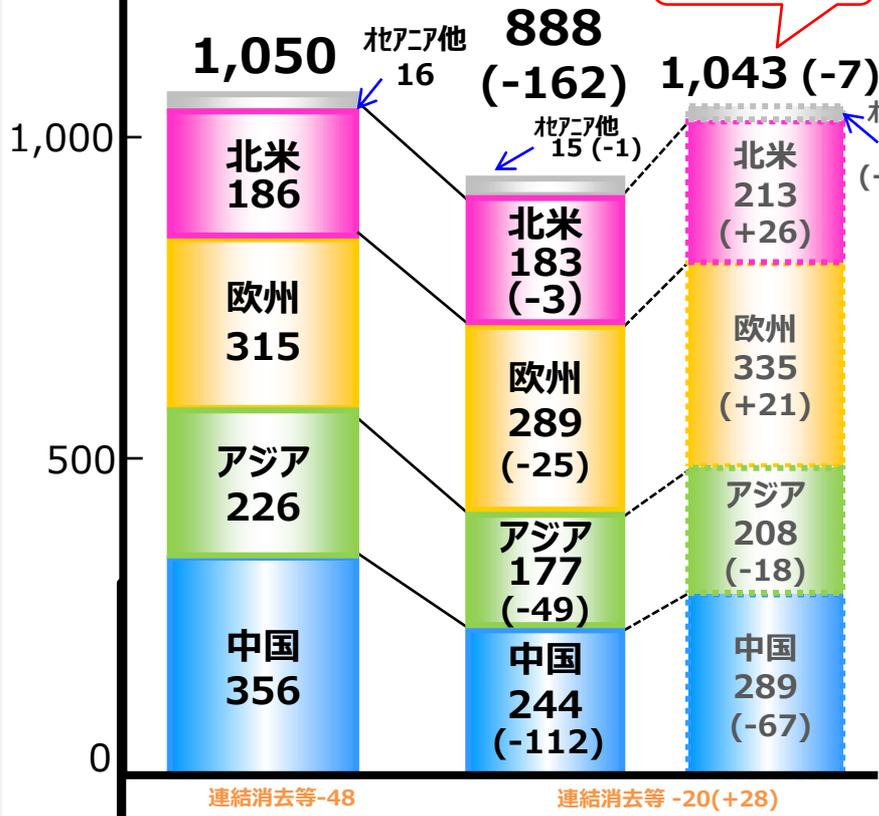
		売上収益			営業利益		
		第2四半期累計	前年同期比	第2四半期累計	前年同期比		
オーガニック	国内物流	<61>	1,695	104%	98.0	120%	
	国際物流	海外	<27>	752	78%	23.3	103%
		フォワーディング他	<8>	236	264%	2.4	229%
		計	<35>	987	94%	25.7	108%
	その他(物流周辺事業等)	<4>	108	97%	9.2	78%	
計		<100>	2,789	100%	132.9	114%	
バンテックグループ	国内物流	<69>	348	96%	12.9	86%	
	国際物流	海外	<31>	157	118%	4.5	77%
		フォワーディング他	<0>	1	1%	0.0	(-1.8)
		計	<31>	158	47%	4.5	59%
計		<100>	506	73%	17.3	77%	
連結消去・バンテック顧客関連資産償却等		-	-49	(+41)	-5.2	(+4.1)	
合計	国内物流	<62>	2,029	102%	106.6	116%	
	国際物流	海外	<27>	888	85%	26.8	104%
		フォワーディング他	<7>	224	87%	2.4	392%
		計	<34>	1,112	85%	29.3	111%
	その他(物流周辺事業等)	<3>	105	97%	9.2	78%	
計		<100>	3,247	95%	145.0	111%	





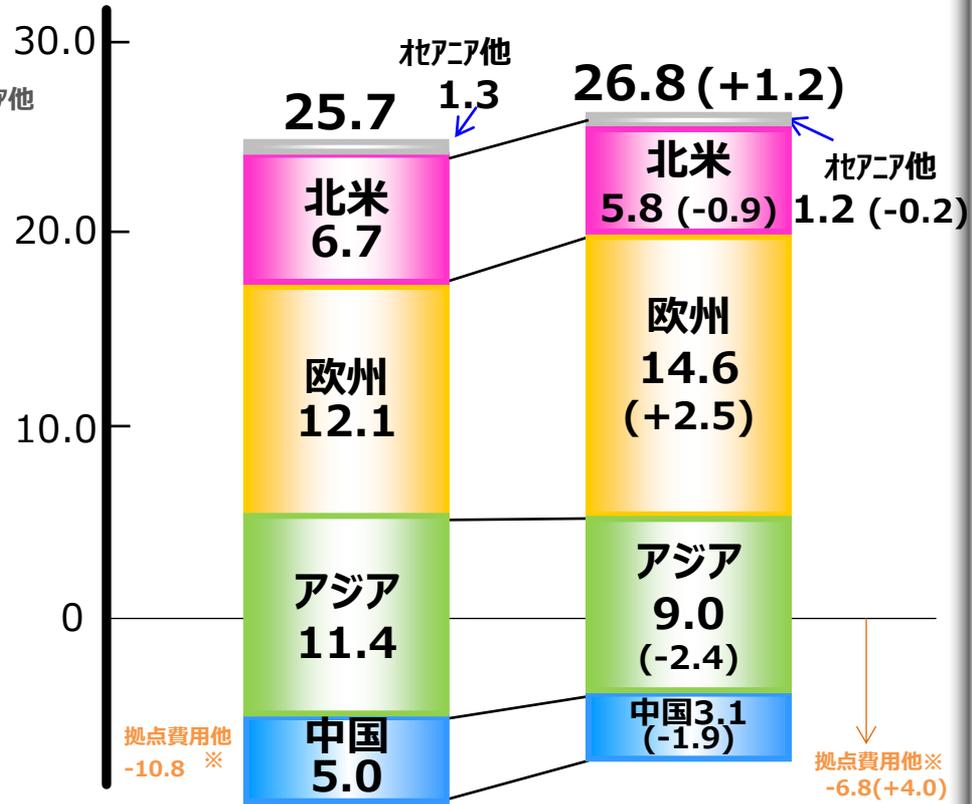
(億円)

売上収益



(億円)

営業利益

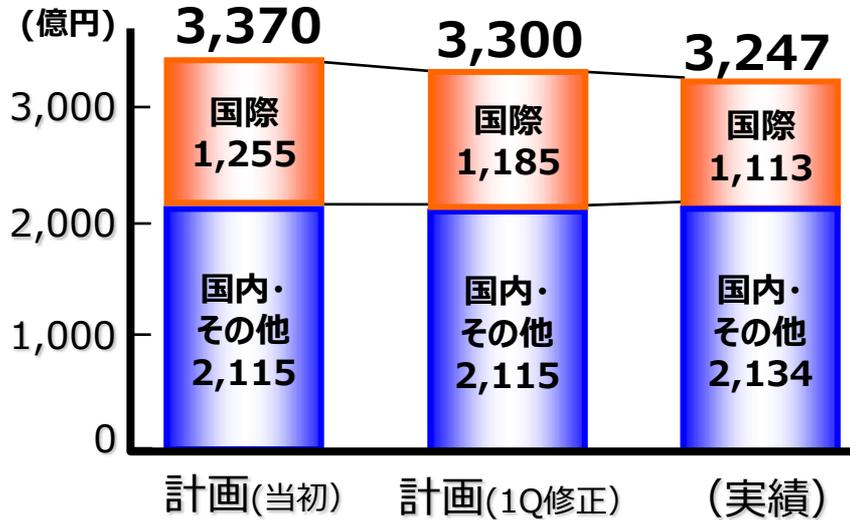


2015.2Q累計(実績) 2016.2Q累計(実績)

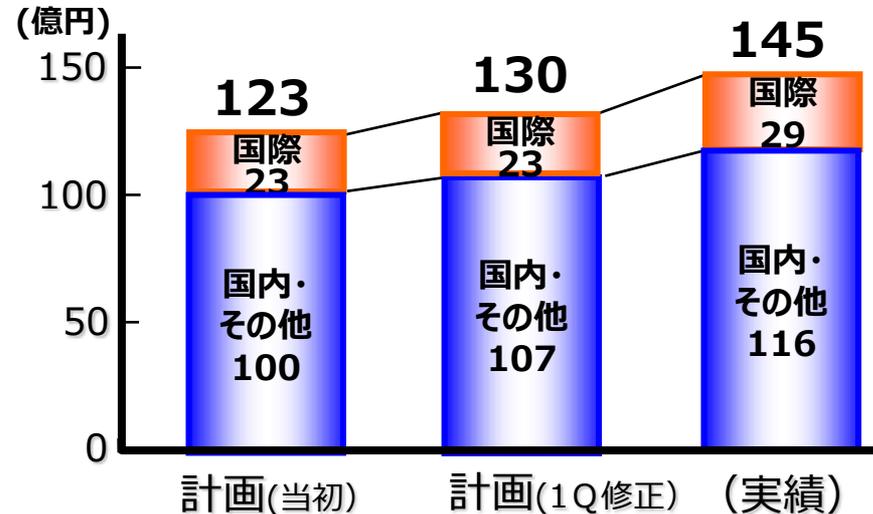
2015.2Q累計(実績) 2016.2Q累計(実績)

※パンテック顧客関連資産償却を含む

売上収益



営業利益



対当初計画比▲123億円(▲53億円)

- * 国際▲142億円(▲72億円) ()内は対計画(1Q修正)
 - 為替影響▲59、海外事業(中国他)▲57
 - 日本発着フォワーディング物量減 ▲26
- * 国内他+19億円(+19億円)
 - 新規案件・物量増 等+19

対当初計画比+22億円(+15億円)

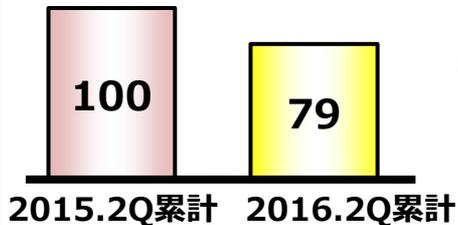
- * 国際+6億円(+6億円) ()内は対計画(1Q修正)
 - 海外3PL事業の収益性向上+5.5
 - 日本発着フォワーディング収益性向上+0.5
- * 国内他+16億円(+9億円)
 - 作業生産性・収益性向上+17 その他▲1

2016年度2Q累計：受注・立上状況

単位：件

		2015年度	2016年度	
		第2四半期累計	第2四半期累計	前年同期増減
立上	国内	9	11	2
	国際	7	2	-5
	計	16	13	-3
受注	国内	4	4	0
	国際	7	2	-5
	計	11	6	-5

(参考) 総受注金額の推移 <新規案件(新旧定義)・単発案件(重量機工等)・小規模案件含む>

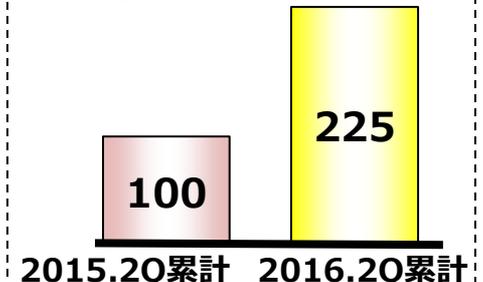
 2015.2Q累計実績を
 100として比較


* 総受注金額は対前年約8割

- ・既存大型顧客の契約更改(保守案件)が多数重なったため、営業リソースが分散した影響
- ・海外・フォワーディング案件の受注減少

* 地域密着営業の強化により、地域における案件獲得は着実に進展

【10M¥未満案件 (16/2Q累 実績)】
 835件 (継続：82件 単発：753件)

 [参考]保守案件の推移
 ※総受注金額には含まず


参考資料
業態別実績 (概算値)

(単位：億円)

		2016年度 第2四半期累計		
		売上収益	営業利益	営業利益率
	国内	1,710	88.9	5.2% (5.2%)
	海外	551	26.9	4.9% (5.2%)
	3PL	2,261	115.9	5.1% (5.2%)
	国内	222	4.9	2.2% (3.2%)
	海外	244	1.8	0.7% (2.3%)
	フォワーディング	466	6.7	1.4% (2.7%)
	国内	316	8.9	2.8% (4.2%)
	海外	94	3.1	3.3% (3.8%)
	オート	410	11.9	2.9% (4.1%)
	その他サービス	110	10.6	9.6% (9.6%)
	合計	3,247	145.0	4.5% (4.9%)

() 内は顧客関連資産償却費を除く

カラン物流センター



- ▶ インドネシア・西ジャバ州
- ▶ 2016年4月稼働
- ▶ 日用品関連

水戸プラットフォームセンター



- ▶ 茨城県ひたちなか市
- ▶ 2016年5月稼働
- ▶ 電気機械器具等

千葉中央センター



- ▶ 千葉県千葉市
- ▶ 2016年7月稼働
- ▶ 飲食関連

キャントンILC*



- ▶ アメリカ・ミシシッピ州
- ▶ 2016年7月稼働
- ▶ 自動車関連

* Integrated Logistics Centerの略

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月～

SGホールディングス及び佐川急便との戦略的資本業務提携

- ▶ 2016年5月
- ▶ 佐川急便を当社の持分法適用会社化
- ▶ 当社は日立製作所及びSGホールディングスの持分法適用会社へ

Webサイト全面リニューアル

- ▶ 2016年6月 (日本語・英語)



研究開発拠点 (R&Dセンタ) 開設

- ▶ 2016年7月
- ▶ 東京都内
- ▶ 研究開発専用施設



※既存物セン内の一部フロアを使用



テレビ番組「賢者の選択」出演

- ▶ 2016年9月
- ▶ 中谷社長出演
- ▶ 日経ビジネス (9/5号) にも関連記事掲載



第3回、第4回及び第5回 無担保社債 発行

- ▶ 2016年9月
- ▶ 発行総額 300億円 (無担保社債としては19年ぶりの発行)

全国トラックドライバー・コンテスト

- ▶ 2016年10月
- ▶ 4トン部門：1～4位独占 (内閣総理大臣賞受賞)
- ▶ トレーラ部門：2位入賞



全国フォークリフト 運転競技大会

- ▶ 2016年9月
- ▶ 一般部門：3位入賞

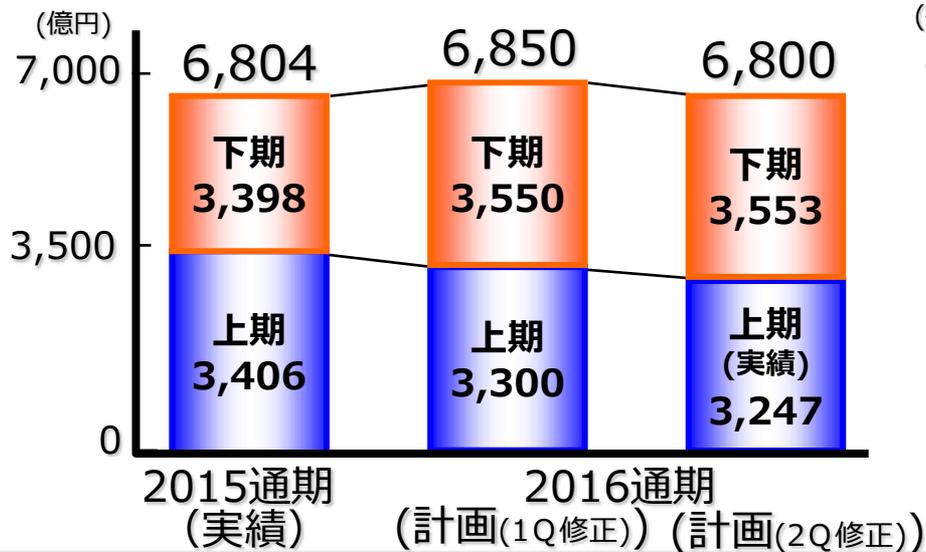
計画値

売上収益：6,800億円

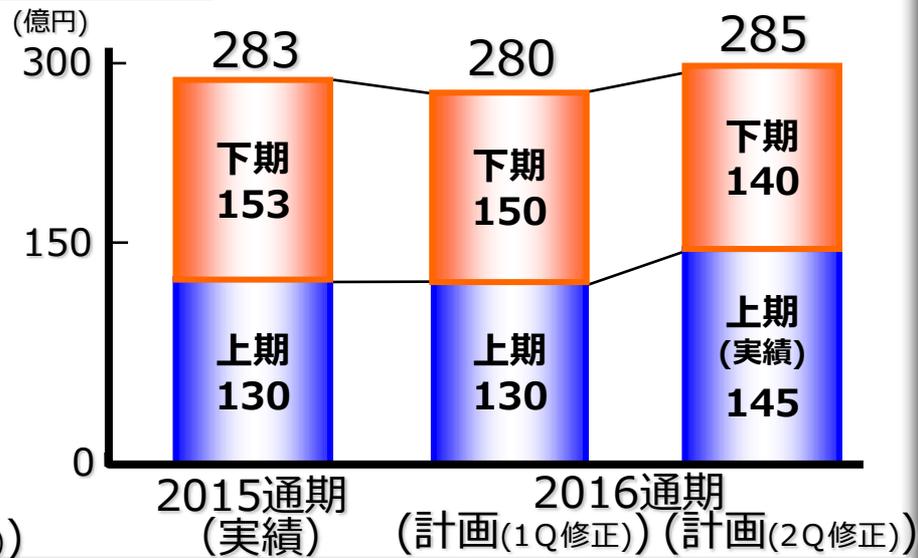
営業利益285億円

2016.10.27修正

売上収益



営業利益



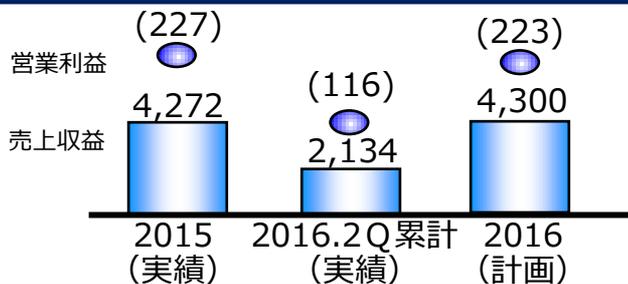
売上収益：新規案件(立上げフル寄与・上積み)や協業効果が発現するも、上期実績や為替を含めた不透明な外部環境を踏まえ修正 <通期：6,850億円→6,800億円 (▲50億円)>

営業利益：生産性改善は通年に寄与するが、「新技術展開の加速」と「新たな構造改革」への費用やリスクも織込み修正 <通期：280億円→285億円 (+5億円)>

売上収益・利益計画

(単位：億円)

国内



食品・日用雑貨



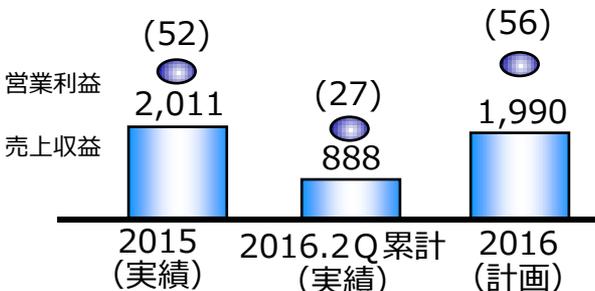
▶岡山県岡山市 (2016年9月本格稼働)

医薬品



▶茨城県内 (2017年1月稼働)

海外



アメリカ



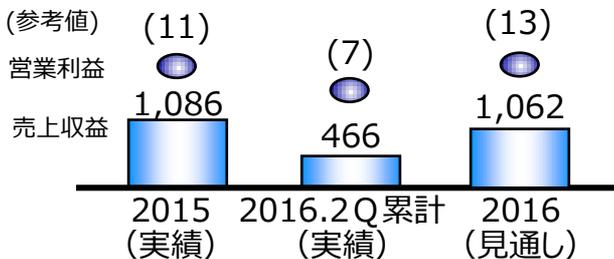
▶自動車関連 (2016年7月稼働)

アメリカ



▶アパレル関連 (2017年1月稼働)

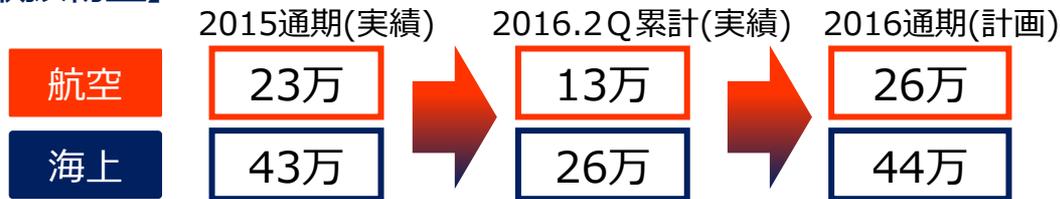
フオーワーディング



上記は業態別業績値

【取扱物量】

(単位：ト(航空)、TEU(海上))



上記は連結消去前の単純合算値

1. テーマ別の活動状況

テーマ	主要課題		活動状況
①3PL & デリバリー	・クロスセル推進	・共同ソリューション	・ターゲット顧客へ3PL・重量機工案件の提案を開始
②インフラ相互活用	・車輛の相互活用	・センター共同利用	・具体案件(拠点)に基づき検討
③次世代センター	・モデルセンターのターゲットと要件定義		・ターゲットエリアの選定(関東)
④新技術の導入	・ウェアラブル導入	・ビッグデータ活用	・導入拠点及び技術を検証
⑤フォワーディング	・国内外代理店の最適活用		・最適なグローバルネットワークの検証
⑥国際事業	・クロスセル、CBT	・デリバリー強化	・アジア・中国で新サービスを開始
⑦周辺事業・その他	・不動産	・自動車 ほか	・車両リース、人材派遣、トラベル事業 他

2. 2016年度下期の重点取り組み

国内

[短期] * 新規営業開発 (①) * 施設の相互利用 (②) [P16参照]
 [中期] * 製造業向けスマート納品の活用 (②)

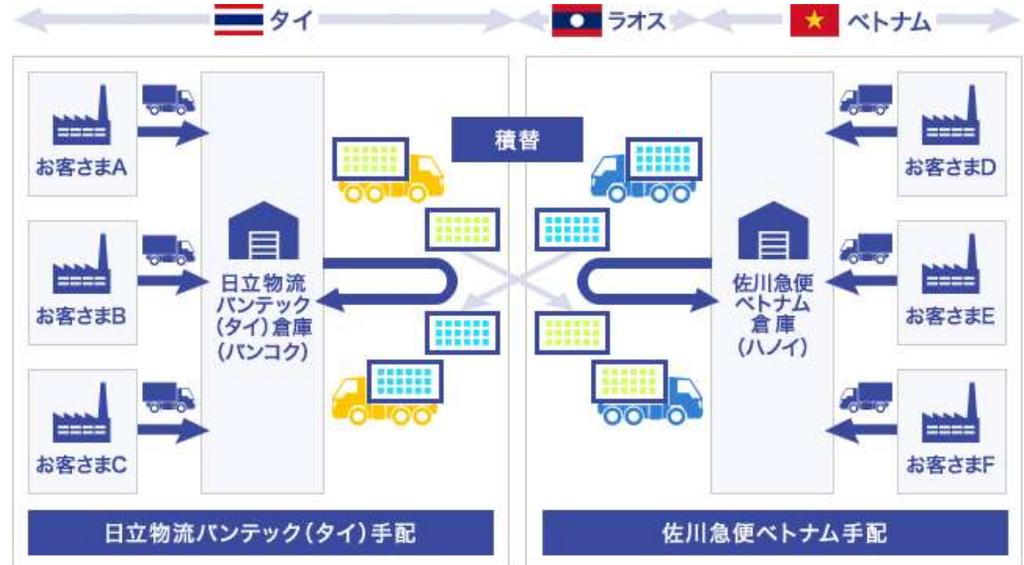
国際

[短期] * アパレル業界向け新サービスの提供(⑥) [P15参照]
 * フォワーディング代理店ネットワークの相互利用(⑤)
 [中期] * クロスボーダー事業の拡販 (⑥) [P14参照]
 * 自動車アフターパーツ事業への取り組み (⑥)

**2018年中計シナジー創出
 500億に向けて**

クロスセル(200億規模)選定
 (中計期間での収益寄与に向け推進中)

東南アジアにおけるクロスボーダートラック混載輸送サービスを開始 ～航空輸送より安価で、海上輸送より迅速に～



日立物流グループの
タイ国内輸送ネットワーク



SgHグループの
ベトナム国内輸送ネットワーク



東南アジアにおける
クロスボーダートラック輸送網を構築

- 航空輸送より安く、海上輸送より速く
 - 日系企業ならではの高品質な輸送
 - 専用コンテナ使用のため、積み替え無し
- [今後]バンコク～ホーチミン等の新たなルート展開も検討**

※本サービスの詳細は、当社Webサイトの2016年10月18日付ニュースリリースをご参照下さい。

アパレル向け日中一貫輸送「スマート・インポート」提供開始 ～検針・検品から国内配送向けアソートまで中国国内で対応～



日立物流グループの
検品・検針ノウハウ



佐川急便の
国内デリバリーネットワーク



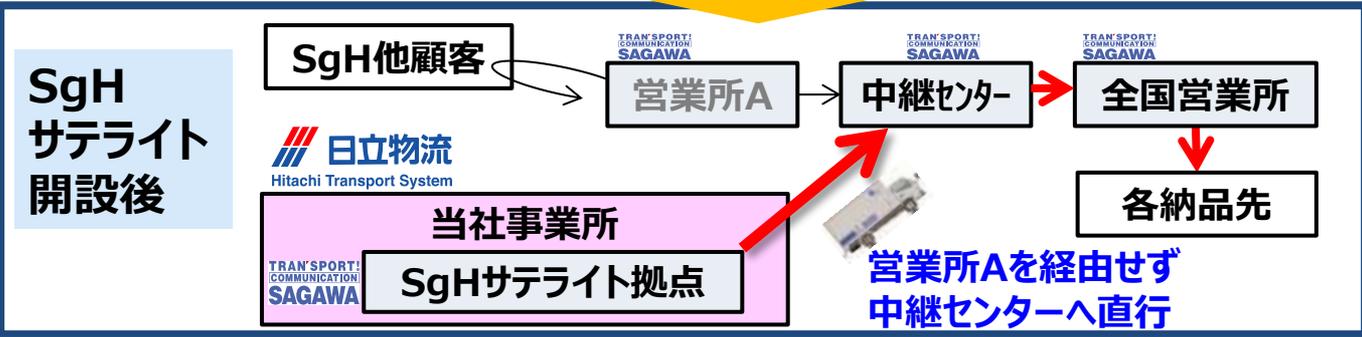
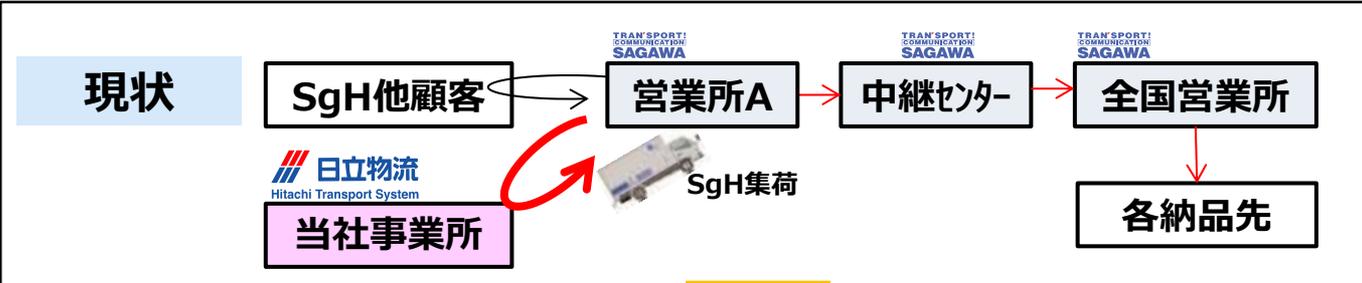
海外工場から国内納品先まで
シームレスな一貫物流サービスを構築

- 日本到着後、ダイレクトに納品先へ配送が可能⇒**配送リードタイムの短縮**
- 海外検品センターを活用することで、入荷後の不良品処理が軽減⇒**物流コストの最適化**

[今後]ミャンマー、ベトナム等での展開も検討

※本サービスの詳細は、当社Webサイトの2016年10月27日付ニュースリリースをご参照下さい。

物流施設の相互活用 ～当社事業所(千葉県)にSgHグループサテライト拠点を開設～



当社事業所における SgHサテライトのイメージ

- [当社グループ] ● 集荷締切時間の延長が可能 ● 施設の有効利用 ● 物量波動の吸収
- [SgHグループ] ● 発送拠点拡充による営業所の物量緩和

R&Dセンター開設

■ R&Dセンター概要 【東京都内物流センター】

- ・物流センターにR&D(研究・開発センター)を開設 (2016年7月15日開所)
- ・既存倉庫の省人化や次世代センタ構想を実現する各種設備や開発ツールの
実地検証フィールドとして活用

■ R&Dセンター機能

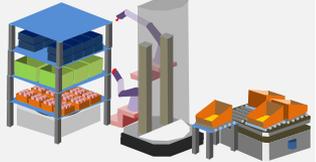
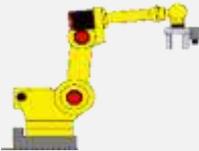
- ・本番と同等の環境下で作業を事前検証
することで**立上げリスクを軽減**
- ・次世代センタ実現のための
新規技術の開発と実用化検証
- ・各種マテハンツールやスマロジツールを
体感・体験することで**現場展開を加速**

都内物流センター(1フロアを使用)



R&Dセンタ技術検証

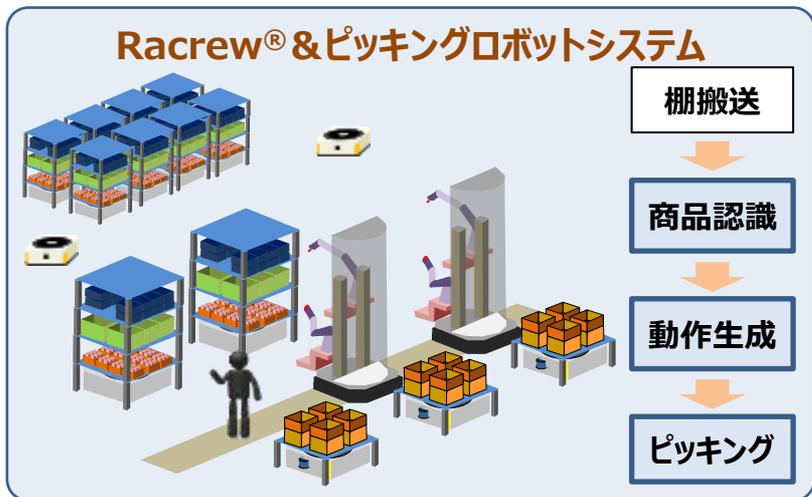
■ 既存倉庫の省人化や次世代センタ構想の実現に向けた技術検証

検証技術	検証内容	検証技術	検証内容
無人搬送	<p>フォークタイプ</p>  <p>台車タイプ (追従走行+無人走行)</p>  <p>連携先:(株)Doog</p> <p>・各種無人搬送機の有効性検証</p>	Racrew® 関連	<p>Racrew®</p>  <p>ピッキングロボット</p>  <p>・導入先拡大に向けた大規模システムの実機検証 ・入出庫ステーションシステムの連動検証 ・ピッキングロボットの実用化検証</p>
デパレタイザー RFID	<p>デパレタイザー</p>  <p>RFID</p>  <p>・各種省人化設備や作業品質を向上させるツールの有効性検証</p>	検品自動化 (画像検品)	<p>画像検品</p>   <p>・食品系営業所を対象とした複数ラベル一括検品実現のための 各種検証</p>

安全性／生産性／操作性など実倉庫環境における機能検証を実施し現場展開を図る

ロボット

■ 自動化適用範囲拡大の取り組み『ピッキングステーション作業の自動化』



- ・双腕マニピュレータと無人搬送台車“Racrew®”と協調制御によるピースピッキング作業の自動化
- ・商品認識技術と動作生成技術による多品目商品のピースピッキング作業の自動化

国際物流総合展にて
実機展示



研究開発中



小型商品ピッキング



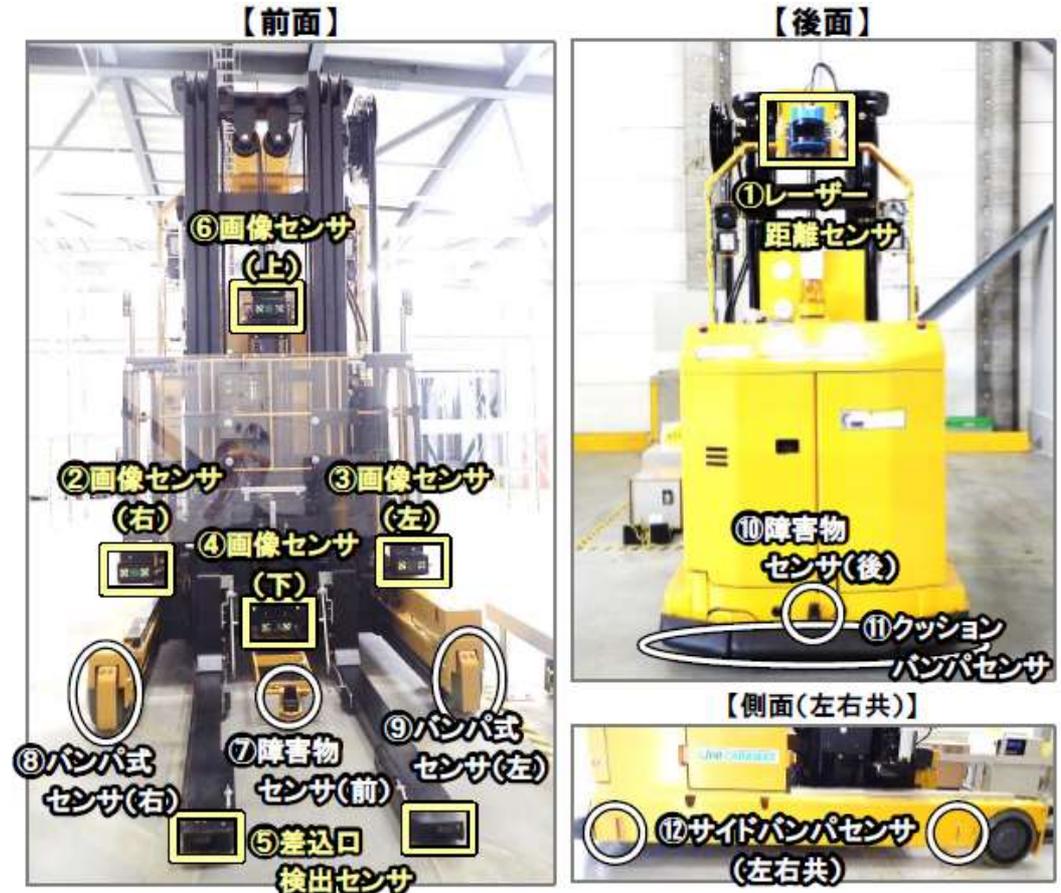
トレー内中型商品ピッキング

アームロボット制御および商品認識機能を実装・検証中

無人フォークリフトによる庫内のパレットの搬送 & 荷役を検証

■ 具体的な検証例

- ・バーチレーター
⇔ 平置き, パレットラック
- ・パレットラック
⇔ パレットラック
- ・昼夜 無人運転
- ・ハイマスト領域(3.0m~5.5m)での荷役



高速、低コストの種蒔き支援システムの実現に向け、メガネ型ウェアラブルデバイスを用いた仕分け作業支援システムをコニカミノルタ(株)様と協同で検証を進めています

<狙い> 高速、低コストの種蒔き支援システムの実現



<技術ポイント>

- (1) グローブ型スキャナとメガネ型ウェアラブルデバイスによるハンズフリーの実現。
- (2) 次の仕分け間口の位置を矢印で表示する簡易ナビゲーション機能で、移動を高速化。
- (3) 限られた表示エリアの中で、高視認性と疲れにくさを両立するユーザ・インタフェース。
- (4) シンプルなシングル仕分けと、高い作業効率を実現するマルチ仕分けの両対応。



ケースソーターのシュート下でのカゴ台車やスリムカートへのケース品の積付け作業の自動化を実現するため、マテハンメーカー様と協同で検証を進めています

本システムの特徴

～画像認識を用いない導入しやすいロボットシステム～

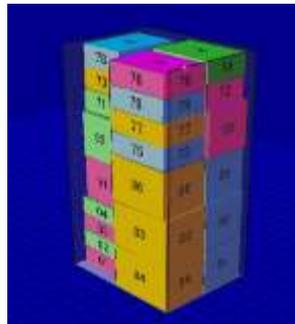
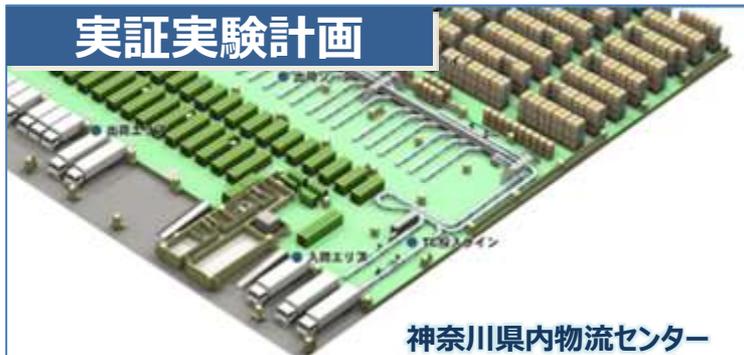
・シンプルな普及型

複雑な画像認識システムを用いない、導入し易いミックスパレタイジングロボット

・積付けロジック

効率のよい積付けのために荷物の順番と配置を計算

実証実験計画



中期経営計画 (VC2018) の確実な達成に向けて、新たな構造改革を推進 ～Rise-up200プロジェクト～

1Q: トップダウンターゲット

- ・企業変革 ・課題の特定
- ・改善機会の創出

2Q: ボトムアッププラン(BUP)

- アイデア創出：
- ・ゼロベース ・多角度 ・複数視点

⇒ 変革の実行 ⇒

- ・施策の見える化 ・進捗フォロー
- ・知見の共有

「中期経営計画の確実な達成」&「自立的且つ継続的に成長する組織づくり」

ワークス
トリーム

購買・外注費

現場オペレーション

営業マーケティング

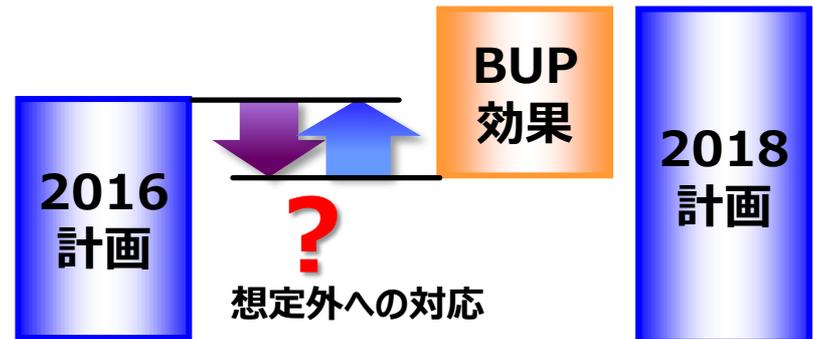
フォワーディング

間接業務

運転資本

- ・集約、集中
- ・合理化、簡素化
- ・プロセス改善、削減
- ・パフォーマンス管理
- ・見える化、標準化
- ・最適化

確実な達成へ



2016年10月27日

2016年度（平成29年3月期） 第2四半期決算 説明会

 株式会社 日立物流

HITACHI
Inspire the Next